



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2023年11月号)

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



大分寒くなってまいりました。体調管理に十分にご留意下さい。

今月号では、「全国集会 & 研修会2024」の詳細と参加申込みについてご案内しました。

次回集會も、とても充実した内容となりました。

皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

写真は、事務局でバッグアップで育てている東北のどんぐりです。

手前が今年植えられたもので、奥が来年東北に届けられるどんぐりの苗木です。

参加園の皆様同様、大切に育てたいと思います。

(目次)

1. JP子どもの森づくり運動「全国集会 & 研修会2024」参加者募集開始
2. 「東北復興グリーンウェイブ」東北のどんぐりをポットに植える活動レポート
3. リレーエッセイ (2023年11月号)

日本郵政グループからのお知らせ

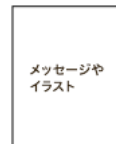
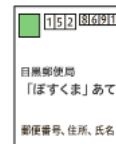
日本郵政グループは「J P 子どもの森づくり運動」の支援
のほか、子ども達に向けた様々な取組みを行っています。

【特別協賛】

JP 日本郵政グループ



お手紙をくれたみんなに
ぼすくまからお返事が届くよ!



ぼすくまの動画はこちら



YouTube
ぼすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channe
l/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ
9A

ぼすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぼすくまと仲間たちは
日本郵便のキャラクターです。
ぼすくまは、くまのぬいぐるみの
郵便屋さんです。仲間たちも
みんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局 「ぼすくま」あて

※ぼすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願い
します。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号
まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. JP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2024」参加者募集開始

先月号で概要をご案内しましたJP子どもの森づくり運動「全国集会&研修会2024」の内容が確定し、参加者の募集を開始しました。今回のテーマは「非認知能力を育む“遊び”を考える」としました。JP子どもの森づくり運動が提唱する子どもたちの自然と環境の体験活動の実際は“野遊び”です。子どもたちは、自由で自主的な“遊び”を通じてのみ、「非認知能力」としての「生きる力」を育みます。ポストコロナの時代をみすえ、あらためて子どもの「体験」の原点である「遊び」について考え、議論したいと思います。年に一度の全国の参加園が集う貴重な機会です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。詳細は、別紙チラシ、及びホームページをご参照願います。

●開催概要

- 1) 開催日: 2024年2月13日(火)、14日(水)
- 2) 会場: 「大田区産業プラザ PIO」3F 特別会議室 (東京都大田区南蒲田1-20-20)
※京浜急行「京急蒲田」駅より徒歩約3分
- 3) 主催: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- 4) 共催: 国際校庭園庭連合日本支部
- 5) 特別協賛: 日本郵政グループ
- 6) 後援: (公社) こども環境学会
- 6) 協力: 全国私立保育連盟/大谷保育協会/国土緑化推進機構、ほか
- 7) 参加方法: 申し込みフォーム (右QRコード) からお申し込みください。



●開催内容

◆【1日目】2024年2月13日(火) 13:00~17:00 -テーマを深堀りする全国集会-

- 1) 基調講演: 東京大学名誉教授 汐見 稔幸氏
※テーマ: 「暮らし力 = 人間力と自然の中での自由な遊び」
～非認知的能力の大切さと人間の暮らし
- 2) 事例発表: 日本冒険遊び場づくり協会 代表 関戸 博樹氏
※テーマ: 子どもが育つ遊び場環境について～冒険遊び場づくりの実践から～
- 3) パネルディスカッション～非認知能力を育む“遊び”について考える～



◆【2日目】2024年2月14日(水) 9:00~15:00 -実践例に学ぶ研修会-

- 1) 基調講演: 渡邊 真龍氏 (元「釜石小学校」校長)
※テーマ: ～「釜石の奇跡」と呼ばれた子どもたち - 防災文化をどう創る～
- 2) 「保育防災アクションマイスター認定講座」2023年度活動発表、及びマイスター認証式
(株) タフ・ジャパン 代表 鎌田 修広氏
- 3) 「園庭緑化運動」2023年度活動発表
田園調布学園大学大学院 人間学研究科 子ども人間学専攻 准教授
国際校庭園庭連合日本支部 代表
「園庭緑化運動」プロジェクトリーダー 仙田 考氏



2. 「東北復興グリーンウェイブ」東北のどんぐりをポットに植える活動レポート

「東北復興グリーンウェイブ」の活動で、全国から東北のどんぐりをポットに植えたという報告が届いております。今月はその内、2園の活動をご紹介します。

1) 広島県「認定こども園みのり愛児園」

・日程：2023年11月2日(木)

・参加園児数：62名（1～3歳児クラス）

今年は、東北から3個のどんぐりが届き、1歳児クラス・2歳児クラス・3歳児クラスの子どもたちが植えてくれました。みんな保育士の話を真剣な表情で聞く姿が見られ、「なんだか特別などんぐりなんだ…」と感じているようでした。そして、興味を持って見たり、触ってみたりと東北どんぐりに親しみを持っていました。

植えたどんぐりをみんなで囲んで「大きくなーれ」と声をかける姿からも大切に思う気持ちが伝わってくるようでした。みんなの思いが伝わって元気に大きくなりますように・・・（園レポート）



2) 静岡県「エンゼル幼稚園」

・日程：2023年11月9日(木)

・参加園児数：60名（年少）

初めになぜ、この会を行っているのかを手作り紙芝居で子どもたちに伝え、みんなが生まれるより前に東日本大震災があった事、津波で木が流されてしまったことなどを伝えました。最初はなぜこの会に参加しているのか分からないという様子だった子どもたちでしたが、紙芝居を読んだ後は、納得した様子でこの会に参加していました。

その後、どんぐりの植え方の手作り紙芝居を使いシュミレーションをした後、各クラス代表者2名が前に出て、実際にどんぐりを植えました。最後には「おおきなあれ、おおきなあれ」とみんなで言って、水をあげました。今回植えたどんぐりを送る会には、2年後に年長になった子どもたちが参加します。植えた事を忘れず、みんなでお世話をし、芽が出た喜びを感じ、成長への願いを持って欲しいと思います。（園レポート）



3. リレーエッセイ (2023年11月号)

岩井 光子さんによるリレーエッセイ「SDGs 入門」の今月号は、目標15の「陸の豊かさを守ろう」のターゲット、森林管理や再生についてです。やはり、J P 子どもの森づくり運動は、SDGs 真ん中の活動ですね。

【SDGs入門】

イギリスで広がる混植・密植の「小さな森」作り 考案者は日本の植物生態学者
ライター 岩井 光子



今年6月、英・ロンドン南東部のケイター公園で園内の樹木131本が伐採される事件が起きました。犯人は逮捕されましたが、一度切り倒されてしまった木は元には戻りません。住民は貴重な都市の森が失われたことに憤り、悲嘆に暮れていました。

住民を元気づけるためにも、森をできるだけ早く復興させようと採用されたのが、環境団体アースウォッチ・ヨーロッパが主導する「小さな森 (tiny forest) 」プロジェクトです。テニスコート1面分ほどの土地に在来の木600本を混植・密植させる植栽方法で、この方法に従うと通常裸地から数百年かかるといわれる“極相”の森林が、およそ10倍の速さの数十年で完成するのだそうです。しかも、植えて数年は草むしりなどの管理が必要ですが、その後は手をかけなくても樹木同士が自然と競争し合って、力強い森が形成されるというのですから驚きます。小さな森とはいえ、虫や鳥など数百の生きものを引き寄せ、自然を豊かにする効果は未知数です。

アースウォッチ・ヨーロッパは2020年にオックスフォードシャーに初めて小さな森を作ってから数年の間に英国で200近くの小さな森作りを市民や自治体などと協働してきました。ちょうど子森ネットの活動と同じように、地元の子もたちが植樹会に参加することも多く、都市のヒートアイランド現象緩和や洪水抑制などと共に住民の自然体験を増やし、地域コミュニティを強化する効果も評価されています。



ところで、この小さな森。考案したのは、誰でしょうか？ 子森ネットの植樹活動に参加している皆さんはもう思い当たっている方も多岐にわたるかもしれませんが、日本の植物生態学者の故・宮脇昭さんです。国内では“宮脇方式”と呼ばれ、イオンやトヨタなど日本を代表する多くの企業や国の省庁が宮脇さんのアドバイスをを受け、ふるさとの森づくりに取り組んできました。

日本の潜在自然植生を熱心に研究していた宮脇さんは、経済性を優先して画一的に植えたマツ、スギ、ヒノキより、その土地本来の特性に合った樹木こそが最も深く根を張り、数千年を生き抜く力強い森を形成することを突き止めました。お手本は神社の鎮守の森。自らも植樹活動に汗を流し、土地本来の植生にこだわった森を作る数多くのプロジェクトに関わりました。

宮脇さんの手法を世界に広めたのは、トヨタで宮脇さんの指導を受けたインド人技術者のシュペンド・シャルマさん。間近で見た宮脇方式に感激し、自宅の裏庭に小さな森を作り、植林会社も起こしました。TED talksでのプレゼンは再生回数140万回を超え、イギリスだけでなく、ドイツ、オランダ、フランス、アメリカ、レバノンまで、小さな森作りは世界各地で一大ムーブメントになっています。

目標15の「陸の豊かさを守ろう」に森林管理や再生に関するターゲットがあります。(写真：岐阜県子どもの森)

※【筆者紹介】岩井 光子氏：ウェブメディア“think”編集。SDGs関連の記事をニューズウィーク日本版、ELLEなど、一般誌で執筆。群馬県高崎市在住。